

留学先大学：清華大学

留学先での所属学部・研究科：社会科学学院国際政治学科

留学先での在籍身分：交換留学生

留学期間：2014年2月～2014年7月

神戸大学での所属学部・研究科：法学研究科

学年（出発時）：M1

本報告書記入日：2014年7月7日

**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	中国語精読 レベル3		4	4	20	文章の内容は難しい。HSK6級以上の文章。ただし授業そのものは難しくない
2	中国語リスニングレベル2	刘丰	4	4	20	リスニングの授業だが、実質スピーキングも行われる。
3	中国語口語レベル2		4	4	20	会話のクラスは、会話を楽しむものと思えば非常に楽しい
4	日本研究	刘江永	3	3	60	中国で最も有名な日本研究者による授業。盧溝橋に先生と一緒に遊びに行ける。その後、日本料理を奢ってもらえる。
5	arms control and international security	李彬	2	2	20	英語の授業。初学者にはオススメできないが、国際感覚豊かな中国人研究者の考え方に触れることができる。中間レポートさえ突破すれば少なくとも単位は手に入れることができる。
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

授業は小教室から大教室まで様々。成績評価はやはり言われている通り、留学生には甘い評価になっている。出席して、課題をこなせば、単位を落とすことはない。ただそうではない現地学生は、必死に勉強している。卒業のために必要な単位は160以上あるらしい。

**費用について**

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：70000

・住居費：（月額） $\frac{40000}{}$  ×（留学月数） $\frac{5}{}$ ヶ月 =  $\frac{200000}{}$ ・食費：（月額） $\frac{15000}{}$  ×（留学月数） $\frac{5}{}$ ヶ月 =  $\frac{75000}{}$ ・保険料： $\frac{75000}{}$ ・その他： $\frac{80000}{}$ 合計： $\frac{500000}{}$ （留学期間全体の費用）

## その他 自由に記入してください。（800字～）

中国での日々は瞬く間に過ぎていきました。中国に渡航したのが冬であったため、大気汚染がひどく、中国到着から1週間後には5m先も見えないほどひどいスモッグに覆われ、中国のみらいを表しているようでした。精神的な負担はほとんどありませんでしたが、到着後1ヶ月くらいは水も食べ物も口に合わず肉体的な負担は大変なものがありました。麻婆豆腐は日本の100倍辛く、回鍋肉は信じられない量の油を使っていて、日本で親しんでいた中華料理はほとんど食べることができませんでした。しかし大学周辺には吉野家やサイゼリア、現地の日本料理店が多く店を構えているのでなんとか急をしのぐことができました。数ヶ月もたてば人間はすごいもので現地の環境に適応します。春になれば過酷な天候の北京も穏やかな季節に成り、柳が飛び回ります。大気汚染も春になれば非常に改善されてきます。風が吹くので汚染物質が吹き飛ばされるためです。（そしてその汚染物質は海の向こうの島国へ行くわけですが）食事も種類が豊富なので探せば自分の口に合うものが必ずあります。清華大学内のあるレストランには500円で北京ダックを食べることができますし、食堂で火鍋等を注文することもできます。

「辛くしないで」と言えばたいの料理は食べることが出来ると思います。清華大学の食べ物はすべて大学側が契約した農家から仕入れているらしく、絶対に汚染されてはいないとのことです。

物価ですが、交通費は非常に安いです。地下鉄は50円程度で乗れ、バスはどこまで乗っても10円程度です。ただし新興国ならなんでも安いと思いがちですが、そうではありません。水などの必需品は非常に安く抑えられていますが、バブルのせい、服や外食はそれなりの額がかかってしまいます。服は日本よりも高いです。奢侈品は驚くべき価格です。

治安ですが、誰もニュースや報道を信じていないので噂や日本のニュースサイトの情報を頼りにしていました。北京の治安は非常に安定しています。もちろんそれは日本と同じような「安定」ではありません。ですが、いたるところに警察やそれに準ずる組織が目を見張っているため北京の治安は非常に良いです。殺人などの重犯罪の発生率は東京よりも低いそうです。6月4日は天安門事件の日ですが、この日が近づくにつれて天安門広場の警察の数がどんどん多くなっている気がしました。中国に留学したら、是非6月4日に天安門広場に行くことをお勧めします。日本と中国の決定的な違いをととても簡単に、そして安全に見ることができます。

中国滞在中に不愉快な思いをしたことは全くありませんが、中国人は日本に対して非常に複雑な感情を持っていることはわかりました。依然として日本の文化力、経済力、そして軍事力に対して強い尊敬と脅威を感じています。日本のアニメが、ただ好きなだけで日本語をマスターした人がいれば、中国のとある歓楽地にあるアーチェリー場の的は安倍晋三と東条英機です。その的に対して満面の笑みで矢を放つ人もいます。「反日」と「親日」が矛盾しながらも共存していました。中国は世界最大の反日国家にして親日国家なのかもしれません。

最後に、この時期に中国大陸に留学することは非常にチャレンジングなことです。生半可な覚悟で行くと、本当に大変な思いをします。ですが、そこで一步踏み出せば経済成長が鈍化しているとは全く感じられない驚異的で危うさを感じるパワーを間近で見ることができます。他の地域や国家では絶対のない貴重な経験となりました。本当にありがとうございました。